

がんばる自分にご褒美体験 千葉県市原市の小湊鉄道で巡るアートイベント 「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020」 2020年3月20日（金・祝）～5月17日（日） ★3月19日（木）プレスツアー実施予定★

「いちはらアート×ミックス」は、「晴れたら市原、行こう。」をコンセプトに、2014年に第1回が始まり、以降トリエンナーレ形式で開催しているアートイベントです。

今年で3回目となる「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020」は、2020年3月20日（金）から5月17日（日）までの期間で開催予定となっております。開催に伴い、報道関係者様向けに本芸術祭のプレスツアーを2020年3月19日（木）に実施いたしますので、是非ご取材をご検討頂ますようお願いいたします。

公式WEBサイト：<https://ichihara-artmix.jp/>

■「いちはらアート×ミックス」開催地の市原市について

会場となる市原市は、千葉県の中央に位置する人口28万人の都市です。市の北部には日本有数の石油コンビナート群が立地する一方、南部には養老川の恵みがもたらす田園風景や先人たちが古来より守り育ててきた美しい里山が広がり、春には満開の菜の花の中をトロッコ列車がのどかに走ります。都心や成田・羽田の両国際空港に近い立地ながら、人々の安らぎと共感を呼ぶ日本の原風景があります。その地域の魅力を起点に、本芸術祭は出発しています。



■市原市を小湊鉄道で縦横断しながらアート巡り！

「いちはらアート×ミックス2020」のテーマは、「房総の里山から世界を覗く」。小湊鉄道五井機関区から養老渓谷までを縦断する100年の歴史をもつ小湊鉄道に乗って、駅舎や廃校や空家に展開するアート作品を巡る冒険が始まります。東京から50kmの「未触の空間」を【覗いて】ください。



小湊鉄道房総里山トロッコ

「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020」プレスツアーのご案内

【プレスツアー実施日】

2020年3月19日(木)09:00～18:30

【集合場所】

8:45 JR東京駅集合 ⇒ 9:00出発 送迎バスにて市原市へ移動

【プレスツアー内容・スケジュール】

8:45 JR東京駅集合

9:00 出発

10:30 小湊鉄道五井機関区見学(40分/11:10～移動)

12:10 旧平三小学校見学(40分/12:50～移動)

13:20 旧里見小学校見学(30分/14:20～移動) 13:30～ランチ@旧里見小学校、随時見学

14:30 月崎の里見学(40分/15:10～移動)

15:30 市原湖畔美術館(30分/16:10～移動)

16:40 前夜祭会場(五井駅)にて、北川フラム氏囲み取材(終わり次第東京へ、18時半頃解散予定)

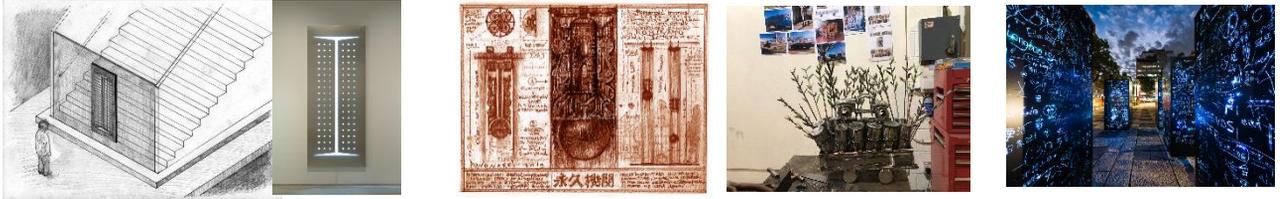
【本件に関する報道関係者のお問合せ】

「いちはらアートミックス2020」PR事務局（イニシャル内）担当：平田・宮崎・亀田
TEL：03-5572-6316 MAIL：Ichihara-artmix_pr@vectorinc.co.jp

1 小湊鉄道全駅内に作品設置～駅舎プロジェクト～

小湊鉄道の始発駅の五井駅～終着駅の養老溪谷駅まで、各駅の敷地内に作品が展開
小湊鉄道で実際に使っている改札錠を使ったぱっちゃんラリーも全駅で実施

■五井駅



■上総村上駅



■海士有木駅



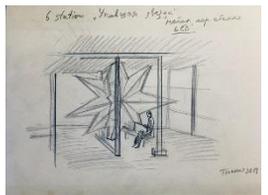
■上総三又駅



■上総山田駅



■光風台駅



■馬立駅



■上総牛久駅



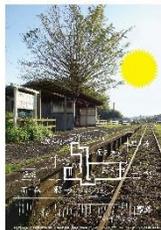
■上総川間駅



■上総鶴舞駅



■上総久保駅



■高滝駅



■里見駅



■飯給駅



■月崎駅



■上総大久保駅



■養老溪谷駅



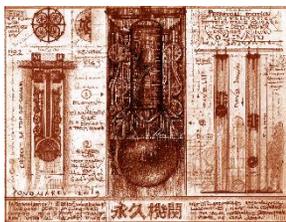
2 "いちはらアート×ミックス2020"見どころマップ

■五井エリア

五井駅構内にある小湊鉄道の車両基地であり、小湊鉄道の車両が配属されている。今もなお使用している鍛冶屋場や作業場、小湊鉄道のホームなどに7~10作品を展開。



小湊鉄道房総里山トロッコ始発駅「五井駅」



操車場内鍛冶場
アレクサンドル・ポノマリョフ (ロシア)

取材ポイント

- ・2017年5月で創立100周年を迎えた小湊鉄道の観光列車「房総里山トロッコ」の始発駅である「五井駅」とホームに展示されたアート作品
- ・予約必須！窓ガラスのないオープンタイプの車両（展望車）は開放感抜群！
- ・普段は見られない、「操車場」や「鍛冶屋場」の見学が可能。※要事前相談

■牛久エリア

上総牛久駅から歩いてすぐの牛久商店街にある、既に閉店した店舗や、今なお現役の洋品店の中に作品を展開。



上総牛久駅



牛久商店街/柳健太郎 (日本)

取材ポイント

- ・上総牛久駅には牛久商店街を含んだ“牛久駅周辺ぶらり散歩マップ”が常備！
- ・閉店した店舗の店舗全体を使ったアート展示等、その活用方法には圧巻！

■高滝エリア

2013年、ダム湖である高滝湖の東岸に「市原湖畔美術館」としてリニューアルオープンし、市の芸術文化による地域づくりの拠点となっている。



市原湖畔美術館/ウラジミール・ナセトキン (ロシア)



市原湖畔美術館/パフォーマンス ニプロール (日本)

取材ポイント

- ・アートミックス期間中は「雲巻雲舒-現代中日美術展・紙」という展示を実施。中国の発明品である紙をテーマとして展示であり、見所充分！中国のアーティストが8名前後出展予定です。
- ・高滝湖畔という絶好のロケーションで、室内だけではなく、屋外に展開する食やアートも満喫！小さいお子さんとの休憩場所にもオススメ。



■平三エリア

2016年3月に140年の歴史に幕を閉じた平三小学校に約10人の作家が展示する。



平三小学校/大野修平 (日本)



平三小学校/栗真由美 (日本)



平三小学校/開発好明 (日本)

取材ポイント

- ・小学校の教室や体育館など広さを生かしたアート作品は見ごたえ抜群！
- ・様々な国籍の作家の作品を鑑賞できる国際色豊かな会場。

■里見エリア

2013年に閉校した小学校を2014年のアート×ミックスにて建築設計事務所みかんぐみが再生。2014年からはじまったおにぎりを美味しく食べるための運動会を開催したり、オフィシャルツアーのランチや子どもたちに人気のモグラハウスも出現。



EAT&ART TARO (日本)



モグラハウス 開発好明(日本)/参考作品



里見小学校/米澤文雄 (日本)

取材ポイント

- ・3/20及び3/28からの5/17までの毎週土曜日に開催される「おにぎりのための運動会」は、アートイベントに遊びにきた観光客の方でも参加が可能！
- ・おにぎりをモチーフにしたアート作品やモグラハウスに入ることも可能。

■月崎エリア

月崎駅前にある2014年の第1回からの人気作品「森ラジオ ステーション×森遊会」、77万年前に最後に地磁気逆転現象が起きた様子が観察できる地層「チバニアン」の周辺や、空家のビフォーアフターを楽しめる「月崎の里」などが展開。



森ラジオステーション 木村崇人(日本)



「チバニアン」の地層

取材ポイント

- ・小湊鉄道のかつての詰所小屋を森に見立て、作成された作品。小屋は苔と山野草で覆われ、建物の中では、森のライブ音をラジオで聞くことができます。
- 令和2年1月17日、国際学会で、今から約77万4千年前～12万9千年前の時代に、「チバニアン」（ラテン語で千葉時代）という名称をつけることが決定。
- ・土日限定で、気球に乗ってチバニアン付近の作品と川の渓流を見ることが出来る展示も実施。（地層は空中からは見学できません。）

■白鳥エリア

上総大久保駅から徒歩圏内の、既に閉所した白鳥保育所を会場に。女性作家のアトリエの風景を垣間見ることができる。白鳥公民館ではパフォーマンスイベントを開催。



上総大久保駅



白鳥保育所/篠崎恵美 (日本)



白鳥小学校/カルロス・ガライコア (キューバ)

取材ポイント

- ・前田エマを中心に女性作家による「女子会」をテーマにした展示を実施。
- ・白鳥公民館では土日限定で、パフォーマンスイベントも行います。
- ・旧白鳥小学校で開催される「おもてなし交流」プログラムでは、地元の方々が市原市の魅力を伝える、食事やワークショップ、体験プログラム、イベントを楽しめる。

■月出エリア

月出工舎は2014年から岩間賢のディレクションのもと、旧月出小学校をリノベーションし、「遊・学・医・食」のプロジェクトを展開。



月出工舎/鈴木敦夫 (日本)



月出工舎/岩間賢 (日本)

取材ポイント

- ・外の展示が特にオススメ！巨大な壁画がお出迎え！！
- ・ゆったりとした展示スペースで癒しの展示が多数。休憩できるスペースもたくさんあるため、小さいお子さん連れでも安心のエリア。

■養老溪谷エリア

渓谷や温泉郷など、千葉県内有数の観光地が点在しているエリア。



終点駅「養老溪谷駅」



あそびばらの谷/マル尼克斯・デネイス (オランダ)

取材ポイント

- ・房総随一の温泉郷 養老溪谷では、渓流釣りやハイキング、バーベキューなど、手軽にアウトドアレジャーが楽しめます。アート以外の楽しみ方もできるエリアです。

3月19日(木)のプレスツアーでは、
★マークのエリアを中心にオススメスポットを巡ります。

3 17の国と地域、約80組のアーティストが参加!

世界各国で様々なアート作品を製作する
多数のアーティストの作品が本イベントに協力

<参加アーティスト/ファミリーネームABC順>

アデル・アブデスメッド/アコンチ・スタジオ/秋廣誠/ターニャ・バダニナ/舞踏団
トンデ空静/ジョアン・カポーテ/チョアン・チーウェイ [莊志維] /チョウハントオル
/CLIP/マルニクス・デネイス/ソカリ・ドグラス・カンブ/ミカーラ・ダウアー
/EAT&ART TARO/アイシャ・エルクメン/藤本壮介/深澤孝史/風煉ダンス/カルロス・
ガライコア/五所純子/長谷川仁/石田真澄/石塚元太良/磯辺行久/伊藤キム/岩間賢/時
速30kmの銀河の旅 (前田麻里、坂口理子、美木マサオ) /ザンナ・カダイロバ/開発
好明/鍛冶瑞子/キム・テボン/木村崇人/米田広大/KOSUGE1-16/栗真由美/栗田宏武/
クワクボリョウタ/トーマス・レーメン/リー・ホンポー [李洪波] /リン・イェン [林
延] /リュウ・ジャンファ [劉建華] /マー・リャン [馬良] /前田エマ/ラヴァル・モ
ンロー/中崎透/成田久/ウラジミール・ナセトキン/マリア・ネボムセノ/ニブロール/
西野達/ニワコヤ/大野修平/岡博美/岡田杏里/大杉祥子/小沢敦志/アレクサンドル・ポ
ノマリョフ/篠崎恵美/塩月洋生/曾我英子/鈴木ヒラク/鈴木敦夫/高田安規子・政子/高
山夏希/竹腰耕平/竹村京/田中奈緒子/レオニート・チシコフ/富安由真/ヘラルド・バ
ルガス/エルモ・フェアメイズ/ワン・ユアヤン [王郁洋] /ウー・ウェイ [伍偉] /
ウー・ケンアン [邬建安] /柳建太郎/米澤文雄/指輪ホテル



(ファミリーネームABC順)

4 一押しフォトスポット

市原市の自然を生かしたアートや情緒深い風景。
その中でも、是非抑えておきたいフォトスポットをご紹介します。

①鉄道ファンから人気が高い“小湊鉄道”

芸術祭の開催エリアをつなぐ小湊鉄道は、懐かしい日本の原風景を走るローカル線です。車窓から見る菜の花畑や、駅舎や列車のレトロな味わいから鉄道ファンからの人気が高く、今回の芸術祭では、この小湊鉄道の駅舎や周辺に作品を展開いたします。



【飯給駅】駅前 × 藤本壮介 (日本)

②2014年の第1回からの人気作品 「森ラジオ ステーション×森遊会」

森ラジオ ステーション×森遊会は、小湊鉄道のかつての詰所小屋を森に見立て、作成された作品です。小屋は苔と山野草で覆われ、建物の中では、森のライブ音をラジオで聞くことができます



木村崇人 (日本)

③千葉県内有数の観光地“養老渓谷”

房総随一の温泉郷 養老渓谷では、渓流釣りやハイキング、バーベキューなど、手軽にアウトドアレジャーが楽しめます。アート以外の楽しみ方もできるエリアです。家族連れにもオススメなスポットで、小湊鉄道房総里山トロッコの終点駅「養老渓谷駅」があります。



小湊鉄道房総里山トロッコ

◎総合ディレクター 北川フラム氏へのご取材について



<プロフィール>

1946年新潟県高田市生まれ、東京芸術大学美術部卒業。「アパートヘイト否！ 国際美術展」を全国194カ所で開催するなど、それまであまり知られていなかったガウディとアパートヘイトに反対する芸術家の動きを日本に紹介し、草の根的なプロデュースで脚光を浴びる。現在は出版から音楽、企画展のプロデュース、都市・建築・街づくりにおけるアート計画、美術・文化評論の執筆など、活動は多岐に亘る。渋谷区まちづくり審議委員。渋谷区文化芸術振興推進協議会委員。

<ご取材可能項目>

- ・3回目の開催となる「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020」の注目ポイント
- ・市原市との活動を始めたきっかけ など

◎実行委員会会長 小出譲治（市原市長）へのご取材について



<プロフィール>

昭和35年8月5日 市原市青柳生まれ

平成25年 市原市議会議長就任

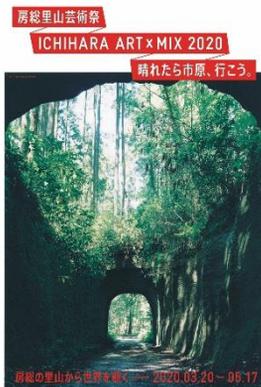
平成27年 市原市長就任

<ご取材可能項目>

- ・「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020」開催背景
- ・2020年開催に向けての想い など

開催概要

名称	: 房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020
会期	: 2020年3月20日（金・祝）—5月17日（日）
開催エリア	: 小湊鉄道を軸とした周辺エリア （五井、牛久、内田、平三、高滝、里見、飯給、月崎、 月出、白鳥、養老溪谷）
主催	: いちはらアート×ミックス実行委員会
実行委員会会長	: 小出譲治（市原市長）
総合ディレクター	: 北川フラム
アートディレクター	: 豊福亮（アーティスト）
デザインディレクター	: 色部義昭（デザイナー）
広報アドバイザー	: 佐野弘明（市原市広報戦略アドバイザー）
出品作家	: 約80組/17の国と地域



■メインビジュアルについて

2014年の第1回に続き、色部義昭にデザインディレクターを依頼。また、写真は作家としても出展する石塚元太良が担当した。原風景に広がるトンネルや小湊鉄道、工業都市といった市原市の表情を切り取った中から、今回のテーマ、「房総の里山から世界を覗く」をイメージさせる、冒険の入口のようなトンネルの写真を用い、メインビジュアルを作成。

【本件に関する報道関係者のお問合せ】

「いちはらアートミックス2020」PR事務局（イニシャル内）担当：平田・宮崎・亀田
TEL：03-5572-6316 MAIL：Ichihara-artmix_pr@vectorinc.co.jp

F A X 返信用紙

「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020」 プレスツアー

FAX : 03-5572-6065

「いちはらアートミックス2020」PR事務局（イニシャル内）

*ご参加または不参加を○印にてご記入の上、

3月17日（火）17：00までに

本紙のF A X送信にてお知らせ頂きたくお願い申し上げます。

「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020」プレスツアー 2019年3月19日(木)00:00~00:00	
ご参加	不参加
【 貴 社 名 】	
【 貴 媒 体 名 】	
【 ご 担 当 者 名 】	
【ご連絡先電話番号】	
【メールアドレス】	
【 ご 出 席 人 数 】	名様（予定）
	<input type="checkbox"/> ムービー <input type="checkbox"/> スチール
【 備 考 】	

【本件に関する報道関係者のお問合せ】

「いちはらアートミックス2020」PR事務局（イニシャル内）担当：平田・宮崎・亀田
TEL : 03-5572-6316 MAIL : Ichihara-artmix_pr@vectorinc.co.jp